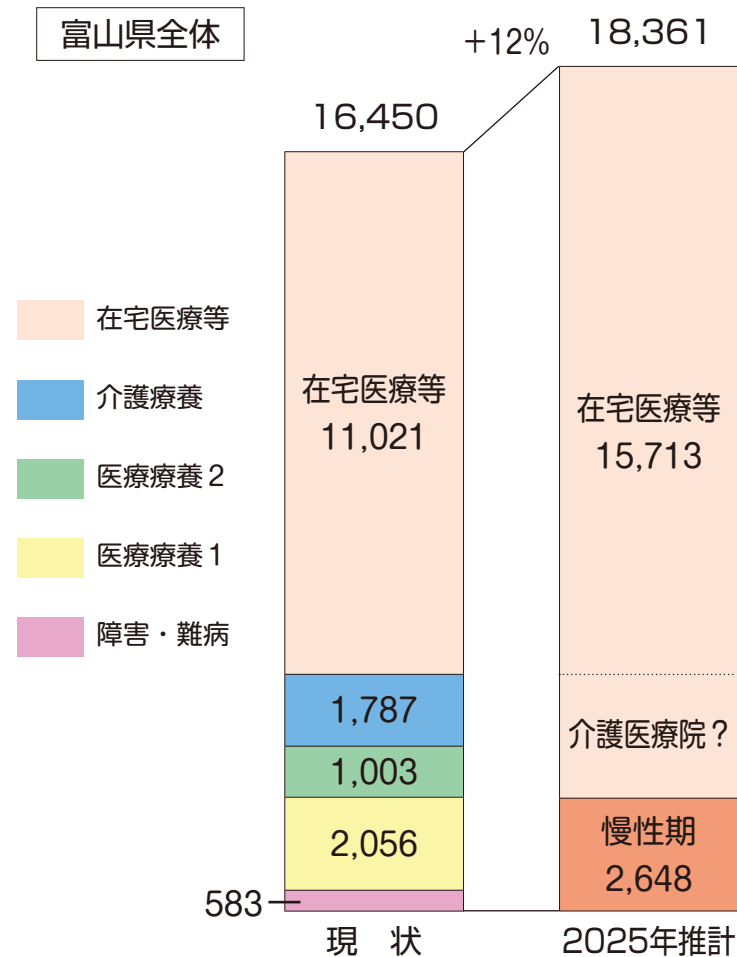
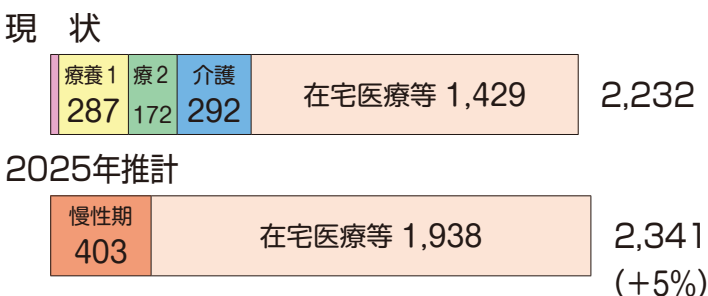


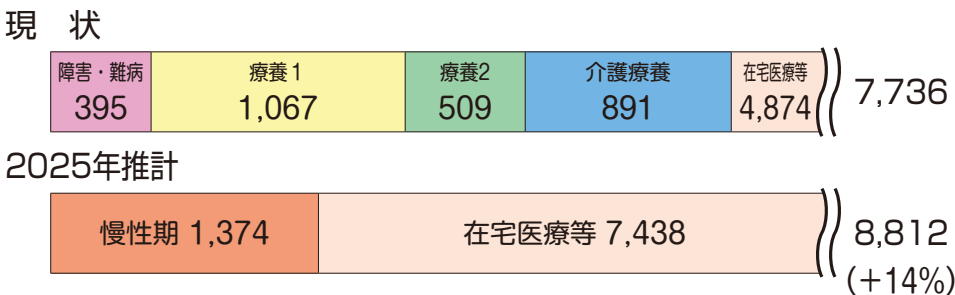
「慢性期機能と在宅医療等」現状と将来必要量推計



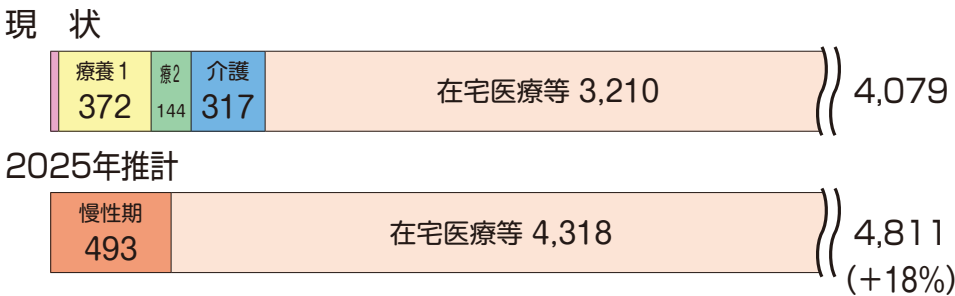
新川医療圏



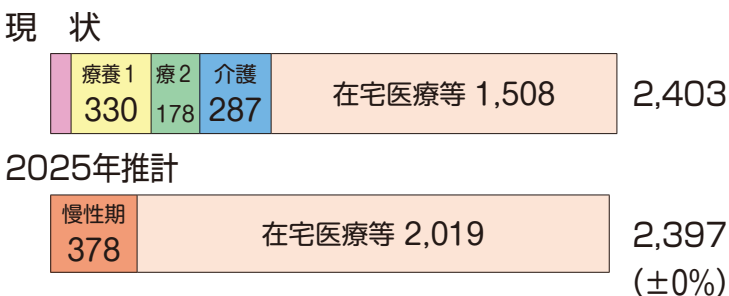
富山医療圏



高岡医療圏



砺波医療圏



「2025年推計」の数字は、富山県地域医療構想より。
「現状」のうち、在宅医療等は2013年の医療需要（県調査）より。他の4区分は2017年3月現在の厚生局への届出状況等より協会が集計。

富山県地域医療構想が策定

介護療養病床等の転換見込む

療養病床

「介護医療院」転換で名目上の病床削減

2025年の医療需要と病床の必要量を示す県の地域医療構想が3月末に策定されました。療養病床数については現状から半減するとした内容ですが、構想において一体的に推計するとされている「慢性期機能と在宅医療等」の県内の現状と将来推計を比較しました。

難病患者を対象にした病床、医療療養病床の1と2、介護療養病床を合計した届出病床数は5429床（3月現在）あり、現状から51%削減する内容となっています。

慢性期・在宅医療等の将来必要量 富山、高岡で県全体を上回る伸び

2025年の必要病床数 療養病床は、昨年12月に省令で定められた算出に素案で示されていた式の関係から、一昨年6月2648床（本紙1月号で示された国推計に準じ、既報）がそのまま将来必要病床数として盛り込まれました。「慢性期機能」に該当するとされる、障害者・

「在宅医療等」の医療需要については、構想では県全体で13年時の1万1021人から4692人増の1万5713人としていきます。ただし、現在の介護療養病床や医療療養2の病床が「介護医療院」等の新たな施設類型に移行する分を差し引き、新たに「在宅医療等」で対応する患者は約1800人としていきます（14年病床機能報告の結果との比較。今年3月現在の届出状況と比較すると約1900人（左グラフ参照）。

富山県では現状から12%増の推計となっています。富山医療圏は14%増、高岡医療圏は18%増と県全体の伸びを上回っています。新川医療圏は5%増、砺波医療圏は±0%となっています。これらは25年までの人口変動が影響しているものと思われる。

書籍紹介

地域包括ケアと福祉改革

二木 立著



発行 勁草書房
 体裁 A5判 240頁
 定価 2,500円+税

2015年10月開催の「中小病院を活かす道シンポジウム」にて講演いただいた二木立氏の最新刊です。同シンポジウム以降から、今年2月までに発表された論文が収録されています。

「序章 今後の超高齢・少子社会を複眼的に考える」では、人口が高齢化して少子化が進んでも社会のレベルでの扶養負担は変わらない、日本は「高医療費国」とは言えない等、今後の日本社会の在り方を考える上で前提となる指標が紹介されています。本書で著者が一番読んでほしいと訴えている章です。（編集部）